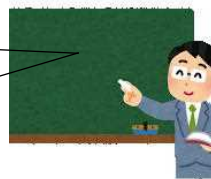


子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画

黒板は、子どもたちの考えを出し合ったり、学び合ったことを表現する場です。子どもの思考の流れを想定した板書計画により学習内容を構造化し、分かりやすい授業を目指しましょう。

分かりやすい板書は分かりやすい授業につながります。



1 板書計画の意義は？

- ・ 授業をつくる際には、学習内容を板書計画に構造的に表すことにより、要点や関連等が明確になる。
- ・ 子どもの思考の流れにそって板書を考えることにより、授業展開が明確になる。
- ・ 子どもたちの考えを想定し、分類や整理等をしておくことで子どもの思考を生かして深めることができる。



板書計画を立てることにより、発問や活動が具体的に見えてきます。

2 構造的な板書とは？

- (1) 子どもの思考の流れにそった板書
 - ・ 学習課題→見通し→子どもの考え→話合いの内容→まとめ等、一連の流れが分かるようにする。
- (2) 構造化する内容
 - ・ 子どもの気付きや考え、賛成・反対などの立場
 - ・ 学習内容の比較、分類、整理、関連、統合等
 - ・ 心情等の変化、変容
- (3) 留意したい点
 - ・ 子どもがノートをとる時に、迷わずに写したりまとめたりできるような構造的な板書を心がける。



構造的な板書により思考が可視化され、子どもたちに考え方を身に付けさせることができます。

3 構造的な板書にする効果的な方法は？

- ・ 文字のサイズ、書く方向、矢印、線囲み、色チョークを活用する。
- ・ 上下・左右の空間の利用の仕方を工夫する。
- ・ 短い語句、図、表、写真等を効果的に活用する。
- ・ 心情曲線、イメージマップ、マスキング等、子どもの思考を促す方法を工夫する。



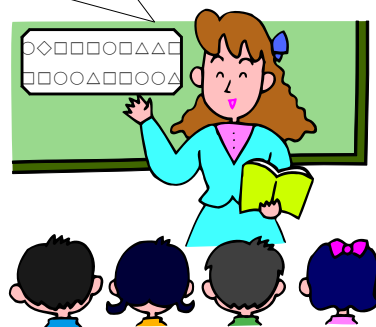
板書の表現方法を工夫すると、子どもの意欲や集中力を高めます。

※ ワークシートの「落とし穴」は？

授業で学習したことや板書を記録する時、ノートを使用するのが基本ですが、学習内容をまとめやすくしたり、時間を短縮したりするためにワークシートを使用する場合があります。ワークシートは、活用の仕方によっては効果的な場合がありますが、次のような「落とし穴」があるので注意しましょう。

- 授業が始まって、すぐワークシートを渡していませんか？
→ まずは、学習意欲を高める導入が最優先です。必然性のある課題設定をした上で、解決するための手段として配付しましょう。
- 最初から指示や発問が印刷されていませんか？
→ 授業の内容や流れが先々まで分かってしまうために、子どもの主体的な学習をさまたげることがあります。
→ 子どもが、どこに何を書くか、内容まで明確になってしまうと、多様な考えを表出しなくなったり、話合いが深まらなくなったりする場合があります。

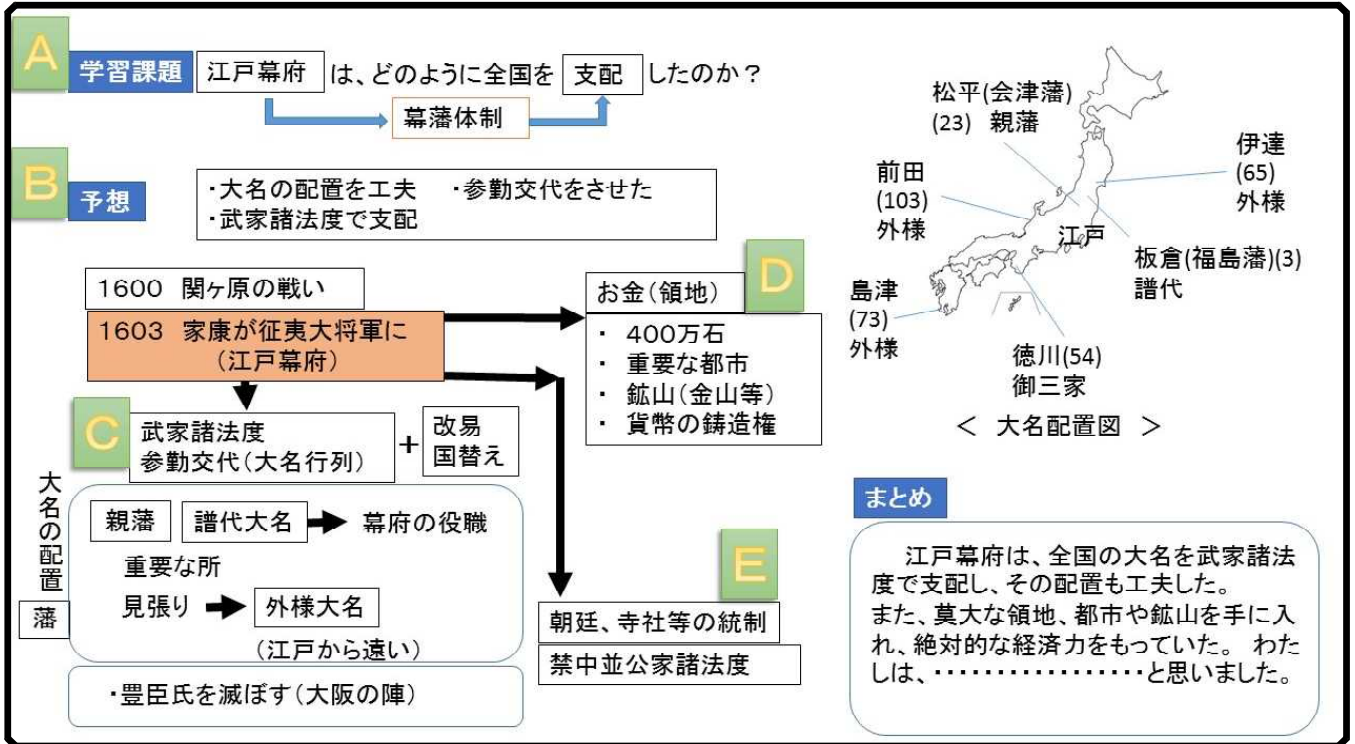
きょう学習したことを黒板で振り返るよ。



○ 中学校社会（歴史）の板書例

単元名 江戸幕府の成立と鎖国

本時の目標 幕府の全国支配の政策を調べることにより、幕府が大名等の統制を強化し幕藩体制を維持しようとしたことを、多面的に考察し説明することができる。



「本時の構造化のポイント」
 ○ 江戸幕府が長い間安定して全国を支配するための政策や工夫を、子どもの思考の流れを想定して構造化する。

「子どもの思考の流れを想定した板書計画」
A 年表から、江戸幕府が約 260 年間も続いたことを読み取り、「なぜそんなに長く続いたのか」「何か理由があるのではないか」という問いを引き出し、学習課題につなげる。
B 小学校の既習事項等を基に生徒に予想させることにより次の調べる活動の手がかりとなるようにする。予想があまり出ない場合は、「自分が将軍だったら」という視点で考えさせる。

ここからは、予想に基づいて調べたことを取り上げて話し合うことを想定する。

C 全国支配のカギ①【大名の統制】
 外様大名の脅威に備えるための工夫に気付いている生徒の意見を取り上げて話し合わせる。
 ・ 大名（親藩、譜代大名、外様大名）の配置
 ・ 武家諸法度や参勤交代の目的
 ・ 改易、国替え
 ・ 幕府の組織 ・ 豊臣氏を滅ぼす
 表面的な話し合いの場合は、全国の大名が連合すれば、江戸幕府も危うくなる可能性から大名を支配する政策について考えさせる。

D 全国支配のカギ②【経済力】
 重要な都市や鉱山を支配した理由に気付いている生徒の意見を取り上げて話し合わせる。
 ・ 経済力 ・ 貨幣の独占

E 全国支配のカギ③【朝廷、寺社等の統制】
 朝廷も監視する必要性に気付いている生徒の意見を取り上げて話し合わせる。
 ・ 京都所司代 ・ 禁中並公家諸法度
 朝廷の存在に気付かない場合は、承久の乱や建武の新政を想起させることにより、朝廷を統制する必要性に気付かせる。

★ **生徒の考えを生かした柔軟な板書**
 C～Eについては、生徒の予想や考えとして出てきた順に板書に位置付けるようにする。

◎ 板書計画を考えると、指示や発問、つなぐ働きかけや板書のタイミング等まではっきりさせることができます。
 ◎ 板書計画をもって机間指導すると想定した意見を生徒のだれが気付いているかすぐに分かり、話し合いに生かすことができます。

